

〈主たる検討テーマ〉

「市民の企画提案による協働のまちづくり事業」の見直しに対する検討

課題認識

- ◎ 事業提案数の減少⇒新規事業の増加
- ◎ 採択事業団体の事業継続⇒関係市部局との「協働」の継続性

検討の手法

令和2年度の応募事業（4件）と過去の採択事業（33件）に対してアンケートを実施し、その結果から検討の視点や課題を探る。

市民の企画提案による協働のまちづくり事業アンケート結果について

- ①「令和2年度実施事業 応募団体に対するアンケート まとめ」…対象：4件
 - ・ 提案書の様式が「書きにくかった」という回答について
 - 民間の助成制度より提出書類が煩雑
⇒ 公費が充てられる観点から、現行どおりの資料提出をお願いするもの。
 - ・ 「各部局は、この制度の趣旨を理解していないのではないかと思う。」との意見について
 - 行政側の提案を受け入れる体制や意識について課題認識
⇒ 市役所内での情報共有と理解促進、協力依頼をすすめる。
 - ・ 意見ピックアップ
 - 団体だけでは考えつかない提案や指摘を受け、良い経験になった。
 - プレゼンテーションを通じて、今後の活動について考えるきっかけにもなった。
- ②「過去の採択事業に関するアンケート まとめ」…対象：33件
 - ・ 採択事業の継続状況
 - 回答18件中、12件（67%、全件比36%）
⇒ 負担金の交付が終わって事業そのものも終わってしまうことが多い。
 - ・ 市の担当部局と協働の関係性の継続状況
 - 回答18件中、4件（22%、全件比12%）
⇒ 団体と行政との協働の関係性が続いている事案が少ない。

• 意見ピックアップ

- 1年の対象期間では短い。3年程度のスパンがないと効果的な活動ができない。
- 事業期間（負担金）終了後も予算計上してほしい。
- 好評につき継続する場合の補助金を検討してほしい。
- 新しい事業にチャンス！ 同団体は何度も採択しなくていい。
- 協働で受ける部署が消極的に感じる。
- 採択までの作業，審査が多い。入り口を簡素化し，実施中のチェックを厳しくした方が応募団体が増えるのでは。
- 費用対効果が数字で見えるものばかりではなく，「人の思い」「危機感」「情熱」といった部分にも行政として投資することが，新たな資源の発掘，新たな事業への投資になると思う。

③ 「市民と行政の協働事業等に関する調査結果」・・・対象：中核市 37 市

- 数字が出そろっている 18 都市の合計との比較

■ 比較表

	18 都市合計		旭 川 市	
事業数	731 事業		33 事業	
継続事業数	197 事業	(26.9%)	12 事業	(36.4%)
協働関係継続	115 事業	(15.7%)	4 事業	(12.1%)

継続している事業数の比率では，18 都市の平均を上回るが，協働等関係性の継続の比率では，平均を下回る。

⇒他都市と比べても，協働の関係性を継続していくことが課題と言える。